

interview

K
さ
ん

業務管理G 生産管理I 主任



未経験からのスタートでありながらも、着実に成果を伸ばし続けている社員がいる。彼は日々の業務では、どのような意識で努力を重ねているのだろうか。また、子どもが生まれたことによる心境の変化とは。その素顔に迫る。

異業種からの挑戦

2019年4月に名興発條株式会社へ中途入社をしてから今年で7年目。前職は、民間企業で塾講師として働いていた。塾講師の業務は、主に平日の夕方から夜にかけて行われる。学校の授業がない夏休みや冬休みの期間は、特に多忙だ。生徒の学力向上を担う仕事にやりがいを感じていたが、将来、結婚をしたときに自分の子どもをきちんと育てていくのか、とても不安だった。

「職場の上司や先輩たちを見ている限り、自分の子どもと接する時間がほとんどないように思いました。家庭を築くのならば、ワーク・ライフ・バランスを重視していきたい。そう考えて、転職を決意したのです」。

未経験からのスタートではあったものの、入社からずっと生産管理チームに所属し、今日までのキャリアを積み上げてきた。

業務の効率化を目指す

普段の業務において最も意識しているのが、スピード感のある仕事とムダな作業の削減だ。未経験にもかかわらず、早期に生産管理の仕組みや業務内容を把握し、率先垂範の姿勢で取り組んできた。入社から7年が経ち、スピードへの意識とムダなことに



対するアンテナの感度は、ますます高まっていると自負している。

異業種からのチャレンジだったからこそ、見えた部分があったのかもしれない。リーダーの素質があり、部下に対して的確に指示をしている姿が周囲から評価されているのも、前職での塾講師としての経験が少なからず活かされていることにあるだろう。もちろん、主任という役職者に就いて初めて得られた意識や感覚もあった。そういったさまざまな要因が重なり、今の自分を形成しているのだと考えている。

もともと入社当時から生産管理チームは、いろいろな面でシステム化を積極的に推進していた部署だった。そのため、エクセルなどのオフィス周りの知識やパソコンのスキルを習得していく必要があり、そうした経験が自分をさらに成長させてくれたと実感している。

意欲的にスキルを磨く

パソコンを用いた業務改善が得意であり、自らRPA（自動入力）プログラムを作成している。パソコンは前職のときから得意だったわけではなく、名興発條に入社してから身につけたスキルだ。

もともと理系の大学に通っていたが、システム系の分野があまり得意ではなかったため、塾講師の道を選んだという事情もあった。だからと言って新たにパソコンスクールに通って何かを習ったわけではない。自らテキストを購入して、仕事が終わって家

に帰ってからの1~2時間を自学自習に費やした。本格的に勉強に打ち込んだ期間は、およそ1年半。まだまだ道半ばの状態だと感じており、これからも折に触れて学びを継続していくつもりだ。

「10分かかっていた作業が5分で完了するなど、業務改善が目に見えて実感できたときは、とてもうれしく感じます。今後は部署内にとどまらず、活躍のフィールドをより広げていければと考えています」。

子どもとの時間がモチベーションに

子どもが生まれてから親としての責任感が芽生え、一緒に過ごせる時間を少しでも長く確保するために、生活のリズムや時間の使い方を真剣に考えて工夫するようになったという。毎晩、子どもの寝かしつけをしているうちに一緒に眠ってしまうため、遅くとも朝4時には起きて勉強の時間を確保している。

日中会社で働き6時半に帰宅すると、そこから子どもをお風呂に入れ、ご飯を食べて、一緒に眠る。早朝に起きて勉強をして、再び会社へと出かける。そうした毎日のサイクルが、とてもいとおしく感じている。フリーランスで働く妻と2人で協力して家事と育児を分担しながら、仕事と生活をますます充実させていくつもりだ。

家族との時間を大切に、前向きな姿勢で仕事に取り組む。その姿は、これからも現場の最前線で輝き続けるだろう。



▲実際に使用したテキスト